

# 研究主題 資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む 授業の在り方に関する研究（1年次）

－「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通して－  
【2年研究】

## 中学校社会科・高等学校 地理歴史科・公民科

【研究担当者】鈴木 徹 泉田 学

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

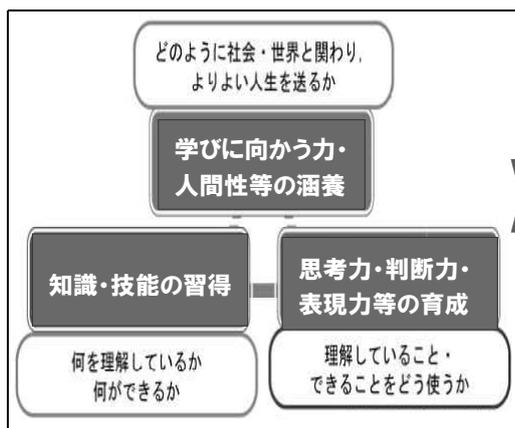
E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

### ■社会科・地理歴史科・公民科(以下「社会科」)で育成を目指す資質・能力

#### 何ができるようになるか

次期学習指導要領改訂が目指していることの一つは、学習内容（コンテンツ）重視から資質・能力（コンピテンシー）重視のカリキュラムへの転換を図ろうとしている点にあります。学習指導要領の構造を資質・能力を起点に見直し、生徒が「何ができるようになるか」の観点から、育成を目指す資質・能力の「三つの柱」として整理しています。

◎全教科等（学校教育全体）で育成を目指す資質・能力の「三つの柱」



【「答申」概要(2016)を基に作成】

◎「社会科」で育成を目指す資質・能力

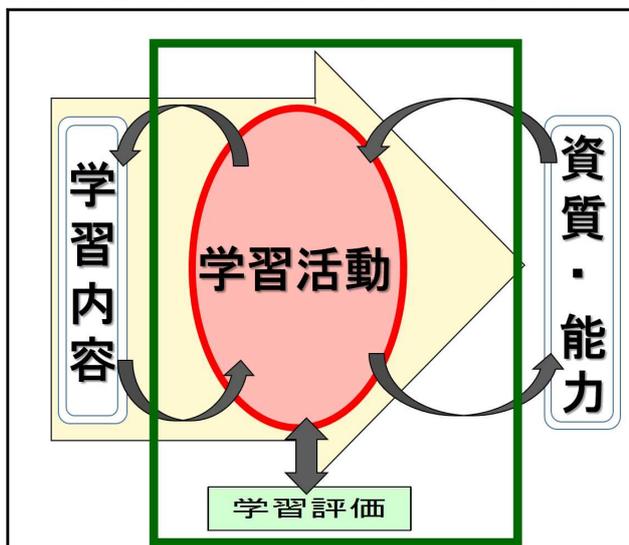
●育成を目指す資質・能力	
【高等学校】公民としての資質・能力	
【小中学校】公民としての資質・能力の基礎	
●資質・能力の具体的内容(「三つの柱」)	
知識・技能	○社会的事象等に関する知識 ・個別の事実等に関わる知識 ・概念等に関わる知識
思考力・判断力・表現力等	○社会的事象等について調べまとめる技能 ・収集する・読み取る・まとめる技能
学びに向かう力	○思考力・判断力 ・考察する力 ・構想(選択・判断)する力
	○表現力 ・説明する力 ・議論する力
	○社会的事象等について主体的に調べ分かっていく態度
	○課題(学習上の課題)を意欲的に解決しようとする態度

【「答申」(2016)を基に作成】

### ■本研究が目指すもの

#### どのように学ぶか 何が身に付いたか

◎学習内容と育成を目指す資質・能力を学習活動でつなぐイメージ



資質・能力の「三つの柱」を育むことを目指し、学習内容（「何を学ぶか」）と学習活動（「どのように学ぶか」）を一体的に扱っていることも、次期学習指導要領改訂の方向性を特徴づけています。

本研究ではこのうち「どのように学ぶか」に着目して「答申」等に示された考え方を読み解き、授業づくりにあたってのポイントを提案すること、併せて生徒に「何が身に付いたか」を的確に捉え、授業改善につなげていく「学習評価」の在り方について例示することを目指しています。

1年次にあたる今年度は、授業実践と往還しながら研究理論の構築を図り、2年次の来年度は、研究理論に基づいた授業実践とその検証を行う予定です。

研究成果は報告書並びにガイドブックにまとめ県内外へ発信し、その考え方を広めていきたいと考えています。

■資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して

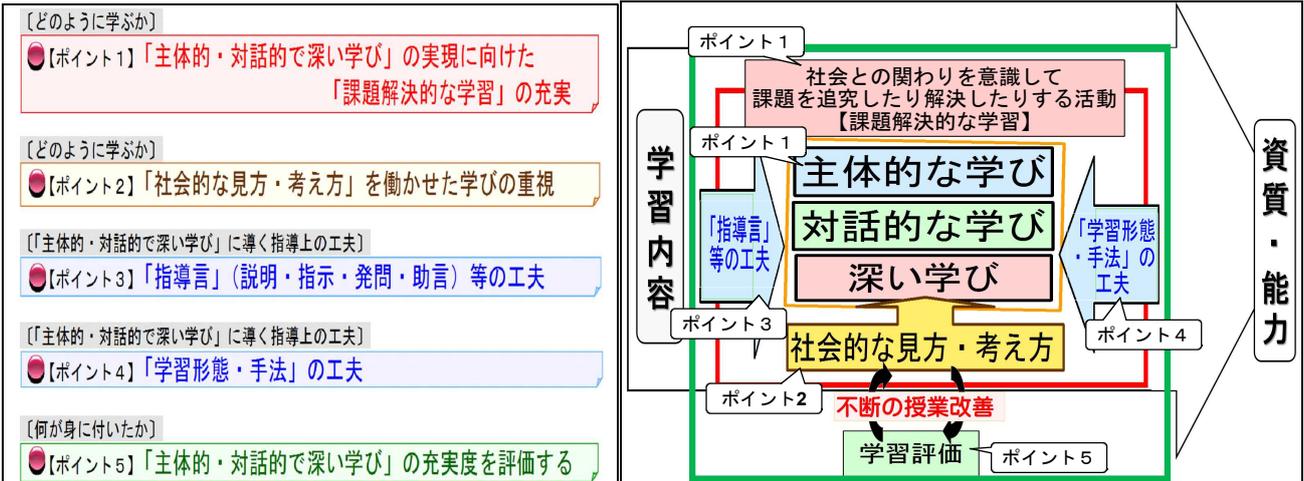
本研究では、次期学習指導要領改訂が目指す学習活動とその充実を図るためのポイントを《5つのポイント》に整理しました。

まず【ポイント1】として社会科が重視する「課題を追究したり解決したりする活動」の充実を図り、その過程で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すこと、「深い学び」の実現を目指し【ポイント2】の「社会的な見方・考え方」を働かせた学びを重視することです。

また、こうした学習活動を充実させるために、「指導言」等や「学習形態・手法」の工夫を図ること（【ポイント3・4】）、さらに多面的・多角的な観点から、その充実度を評価し指導改善につなげていくため、学習評価の工夫を図ること（【ポイント5】）が大切になるものと捉えました。

◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた  
授業改善《5つのポイント》

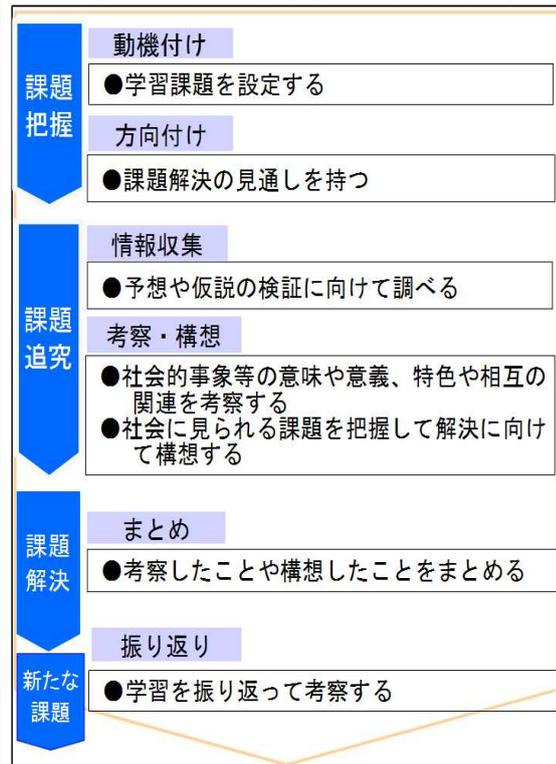
◎授業改善《5つのポイント》が機能するイメージ



■本研究で作成を進めているガイドブックでは、上記の《5つのポイント》について解説しています。その概要を紹介します。

【どのように学ぶか】  
●【ポイント1】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「課題解決的な学習」の充実

◎「課題解決的な学習過程・学習活動」例

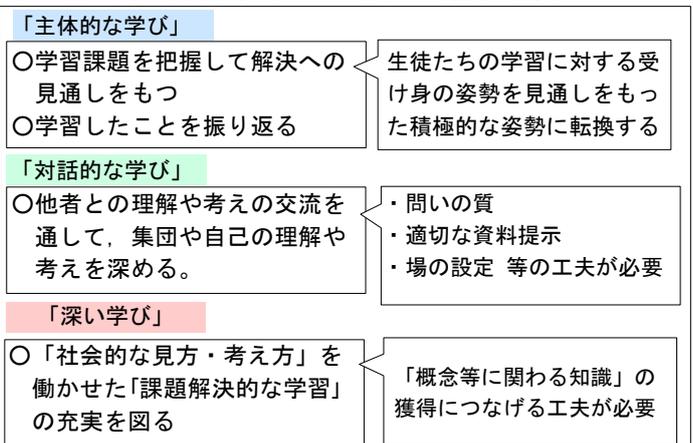


【「答申」（2016）別添資料3-6を基に作成】

資質・能力の「三つの柱」の育むために校種・教科・科目を越えた授業改善・授業研究の視点として示されたのが「主体的・対話的で深い学び」です。こうした学びを社会科が重視する「課題解決的な学習」の過程で実現していくことが、次期学習指導要領改訂が目指す方向性として示されています。

生徒が自分事として学習対象を捉えること、対話により納得のいく知見を得ること、個別の知識を得るだけでなく、構造化して捉えることが求められます。

◎「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて



【「答申」（2016）を基に作成】

【どのように学ぶか】

●【ポイント2】「社会的な見方・考え方」を働かせた学びの重視

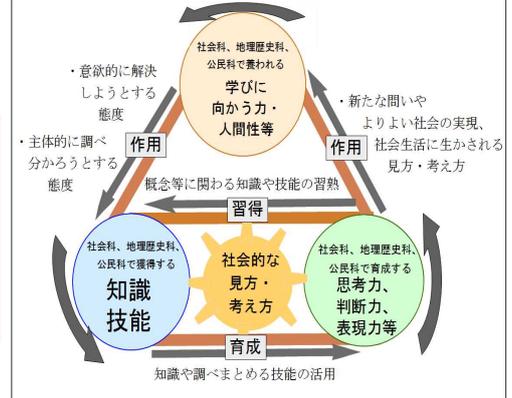
◆「社会的な見方・考え方」とは

次期学習指導要領改訂の方向性では、「社会的な見方・考え方」が「深い学び」に至る鍵になるものとされています。その捉えを、

- 社会的な事象等について考察したり、構想したりする際の視点や方法
- 学びの過程の中で概念等に関わる知識を身に付けるために必要となるもの
- 思考力・判断力・表現力の育成や生きて働く知識の獲得、主体的に学習に取り組む態度等にも作用する資質・能力全体に関わるもの（右図のイメージ）

などとして、位置付けを明確にしています。

◎「社会的な見方・考え方」が機能するイメージ



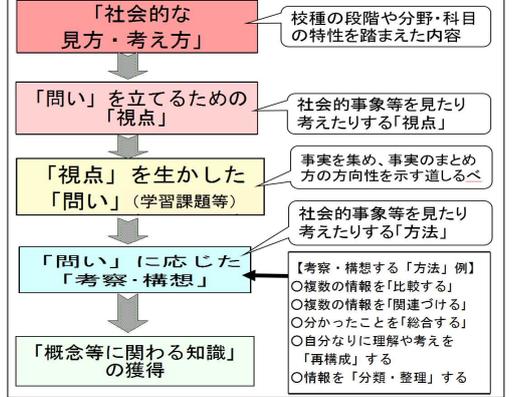
◆「社会的な見方・考え方」を働かせる学びについての考え方

社会的な事象等について追究しようとする「視点」から「問い」が生まれ、「問い」が「考察・構想」に向かわせ、「考察・構想」が「概念等に関わる知識」の獲得につながっていきます。「社会的な見方・考え方」を働かせるためには、学びの過程における「問い」の質を向上させることが鍵になるものと考えられます。

これからの授業では教員個々が「社会的な見方・考え方」について深く理解し、具体的な教育内容、教材に即して社会的な事象等を見たり考えたりする視点を生徒に提示できるかが、問われることとなります。

※「概念等に関わる知識」⇒ 意味や特色を説明する知識

◎「社会的な見方・考え方」を働かせるイメージ



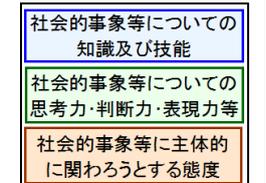
【何が身に付いたか】

●【ポイント5】「主体的・対話的で深い学び」の充実度を評価する

「主体的・対話的で深い学び」は、学習者の多様なパフォーマンスを引き出す学習です。知識量等の「量的な面」のみでなく、育成された資質・能力について、その深まりや広がりという「質的な面」からの評価も求められます。

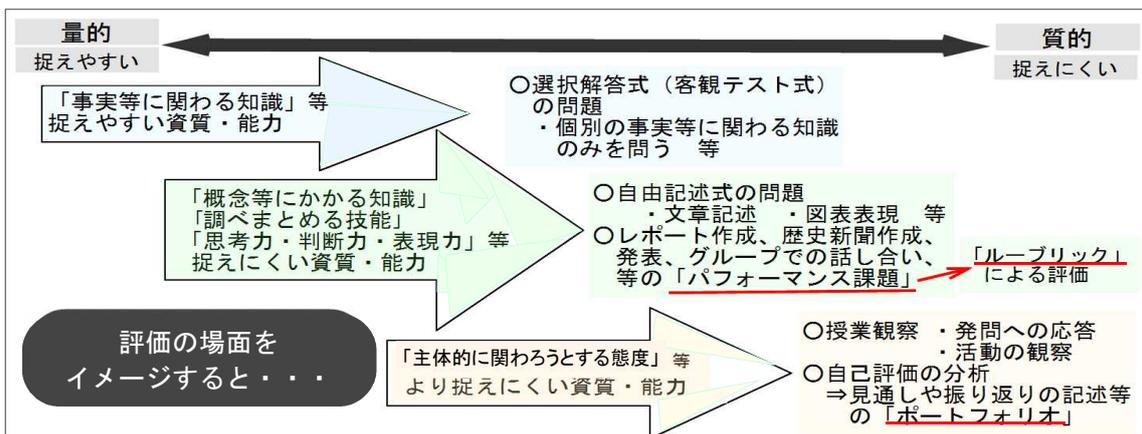
また、評価を行うタイミングについても単元末や学期末などの「総括的な評価」のみでなく、学習の過程における自己評価等による「形成的な評価」を重視して、生徒自身が学びの状況を把握できるようにしていくことが大切になります。

◎評価の三観点【社会科】



【「審議の取りまとめ」を基に作成】

観点別評価については、資質・能力の「三つの柱」に基づき、右上の図の三観点としています。毎回の授業でこれら全てを見取るのではなく、単元や題材のまとまりの中で見取るものとし、学習・指導内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要とされています。



## ■研究のまとめ（2年研究の1年次）

### ◆理論構築のための授業実践を通して

◎授業実践後の所感（実践上の留意点）

#### ●「主体的な学び」の実現に関わって

- 単元の導入において、単元を通じた課題意識の醸成、課題意識を基にして学習の見通しをもつ学習活動を取り入れるためには、十分な吟味が必要である。
- 単元の課題設定とそれに伴う学習活動については、生徒の学習意欲を喚起・継続し、「深い学び」に導くような工夫が求められる。
- 「見通し」と「振り返り」の記述・交流ありきの学習活動に陥り、基礎的・基本的な知識・技能の定着のための学習活動が十分に確保できないことが懸念される。

#### ●「対話的な学び」の実現に関わって

- 十分な動機付けと解決の方向性を明確にした学習場面の設定が必要である。
- 話し合いの進め方について、国語科等における学習の成果を生かしつつ、充実させていく必要がある。

#### ●「深い学び」の実現に関わって

- 各時間に「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想、説明、議論等の学習を組み込んで構想するためには、単元を見通した学習の中で、思考、判断、表現する学習活動（個人⇒集団⇒個人）を精選して組み入れることで十分な学習時間を保障し、内容の充実を図ることが必要である。

#### ●「学習評価」に関わって

- 学習評価は、評定等を付けるためのものにとどめず、生徒の実態を見取り、伸ばすためのものとするため、それぞれの学習活動や場面に応じた効果的な評価方法について学んでいくことが急務である。

### ◆成果・来年度に向けて

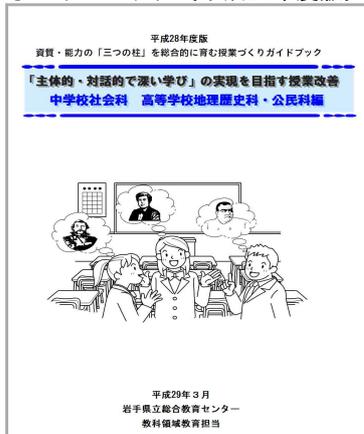
#### 【成果】

- 次期学習指導要領が目指す授業づくりの視点に基づき、1単元の授業を構想し、その一部を実践することで、実践上の留意点を見出すことができました。
- 高等学校においても「課題解決的な学習」や「単元を意識した授業づくり」が有効であることが確認できました。

#### 【課題】

- 授業実践で見出した実践上の留意点を意識しつつ、生徒の実態を的確に捉えながら、ステップで実践を重ねていきたいと思えます。
- 年度当初に育成を目指す資質・能力を教科の枠を越えて共有し、各教科の授業実践に取り組んでいくことが必要と考えました。

#### ◎ガイドブック〔平成28年度版〕



#### 《ガイドブックの主な内容》

- I 育成を目指す資質・能力「何ができるようになるか」
- II 資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方  
「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」  
・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善  
《5つのポイント》
- III 資料  
・「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ  
・社会科における「ポートフォリオ評価」の考え方（例）  
・社会科における「パフォーマンス評価」の考え方（例）  
・社会科における「ルーブリック」の作成と活用（例）

★次期学習指導要領改訂の方向性に沿った実践・交流が期待されています。本ガイドブックをその一助としてご活用いただければ幸いです。

※最新の情報を取り入れつつ改訂して参ります。

■研究報告書とガイドブックは、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。また、本研究の総論も掲載しておりますので、併せてご覧下さい。

<http://www1.iwateed.jp/kankou/kkenkyu/172cd/h28ken.html>